

<第28回調査>

2011年9月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年9月13日(火)13:00~2011年9月20日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、1884件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

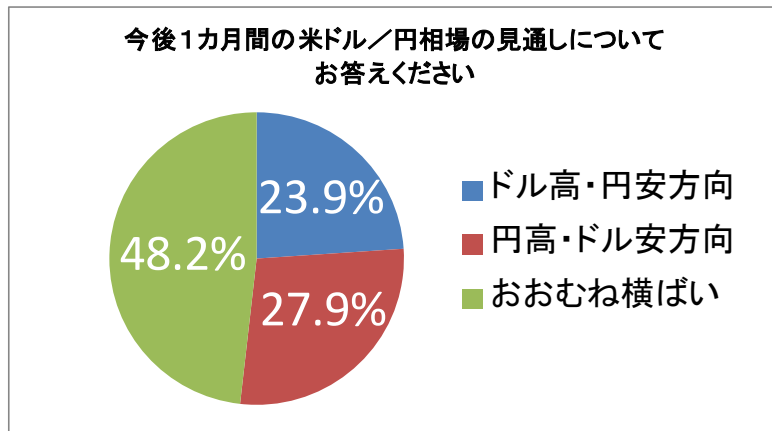
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第28回調査結果略報：ドル円予想DI3カ月連続のマイナス】

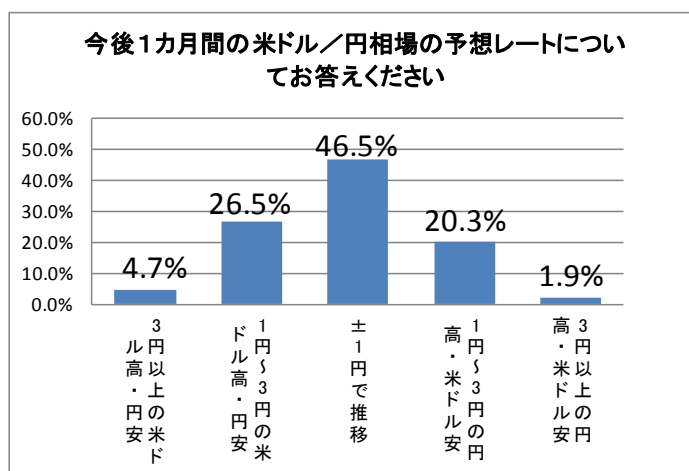
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が23.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が27.9%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲4.0%ポイントとなり、前回調査の▲27.2%ポイントからマイナス幅が縮小した。過去最大のマイナス幅を記録した前回調査に比べると勢いを失ったものの3カ月連続で円強気・ドル弱気予想が優勢となっている。なお、今回調査で最大の回答割合を得たのは「おおむね横ばい(48.2%)」であった。調査期間中のドル円相場は、歴史的安値圏にありながら、76.32円から77.32円という狭いレンジでのみみ合いが続いた。FX投資家の半数近くが、こうした膠着状態が今後も1カ月程度続くと予想している事になる。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

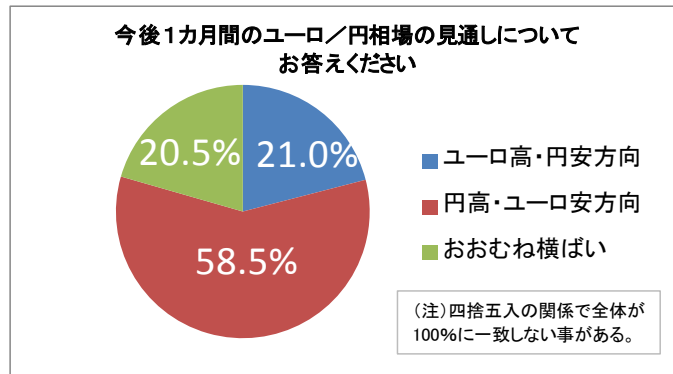
「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が46.5%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が26.5%、「1円～3円の円高・米ドル安」が20.3%、「3円以上の米ドル高・円安」が4.7%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.9%の順になった。ヒストグラムの形状は、「±1円で推移」を中心とした左右対称となっており、問1で「おおむね横ばい」が最大の回答割合となった結果と整合的である。また、問1で「ドル高・円安」、「円高・ドル安」を予想した向きも、そのほとんどがドル円相場の値動きは3円以内にとどまると考えている事がわかる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

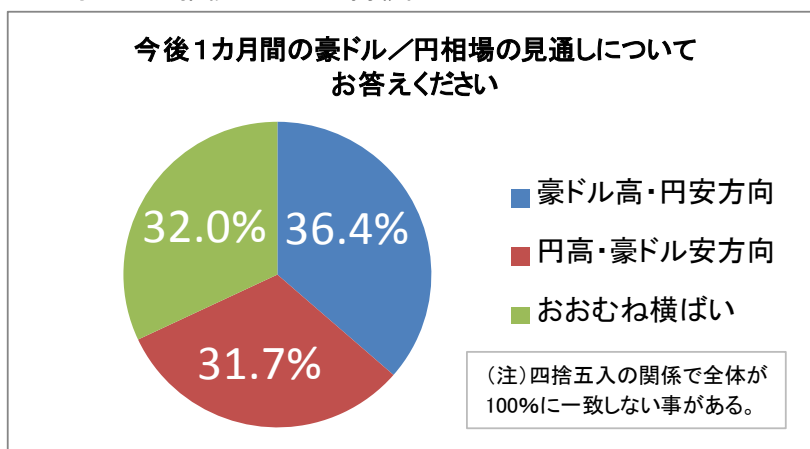
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が21.0%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が58.5%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲37.5%ポイントとなり、前回調査の▲26.6%ポイントからマイナス幅が拡大した。これは、ギリシャ・ショックに揺れた昨年5月の第12回調査(▲37.7%ポイント)に次ぐマイナス幅となっている。調査期間中のユーロ円相場は、103.90円台から106.90円台で推移し、ギリシャの債務不履行(デフォルト)懸念がくすぶる中、約10年ぶりのユーロ安・円高水準でもみ合った。幾度となく蒸し返される欧州債務問題を背景にユーロ弱気・円強気派の勢いは衰えが見られない。
 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

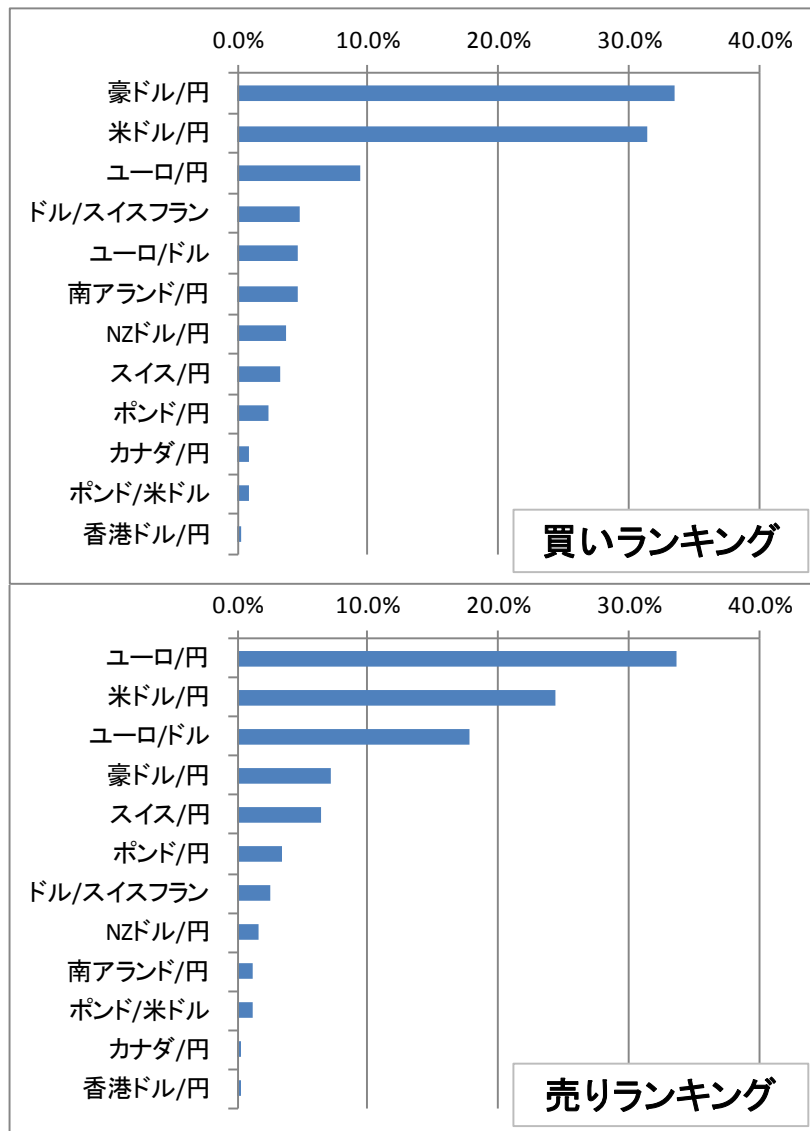
「今後1カ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が36.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が31.7%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+4.7%ポイントとなり、豪ドル強気・円弱気予想は維持したものの、予想DIのプラス幅は3カ月連続で1ケタ台にとどまった。調査期間中の豪ドル円相場は、77.70円台から79.90円台で推移しており、主に欧州発の材料で弱含む場面が目立った。豪準備銀行(RBA)の次の一手は利下げであるとの見方もくすぶっており、FX投資家層の豪ドル強気姿勢は徐々に後退しつつあるようだ。
 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

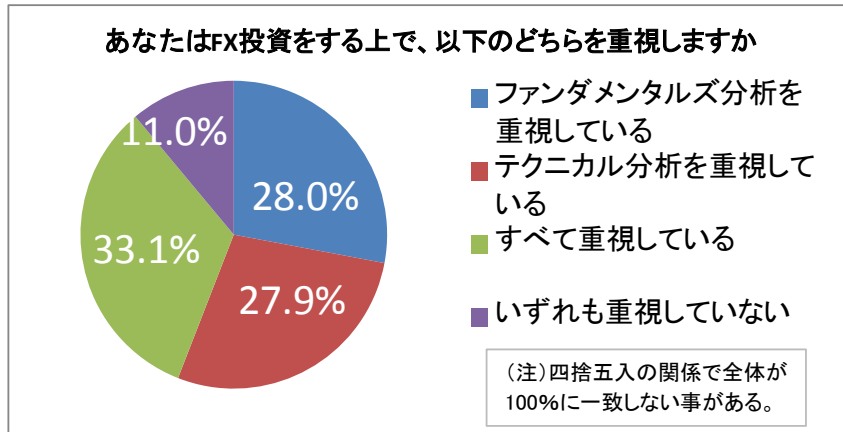
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(33.5%)、2位ドル円(31.4%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(9.4%)、4位ドルスイス(4.8%)、5位はユーロドル(4.7%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(33.6%)、2位ドル円(24.4%)、3位ユーロドル(17.8%)、4位豪ドル円(7.2%)、5位スイス円(6.4%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは豪ドル円とドル円が1位、2位を占める傾向に変わりはない。両通貨ペアは「売り」で注目のランキングでもそれぞれ2位と4位に入っており、FX投資家の両通貨ペアに対する関心の高さを改めて印象付ける結果となった。また、前回調査では「買い」で注目の3位に入っていたスイス円が8位に後退し、前回調査で8位であったドルスイスが4位に浮上した。スイス中銀(SNB)がユーロスイス相場で1.20フランの下限目標を設定し、無制限にフラン売り介入を行うと発表した事を受けて、一部のFX投資家はスイスフラン弱気予想に転じたようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

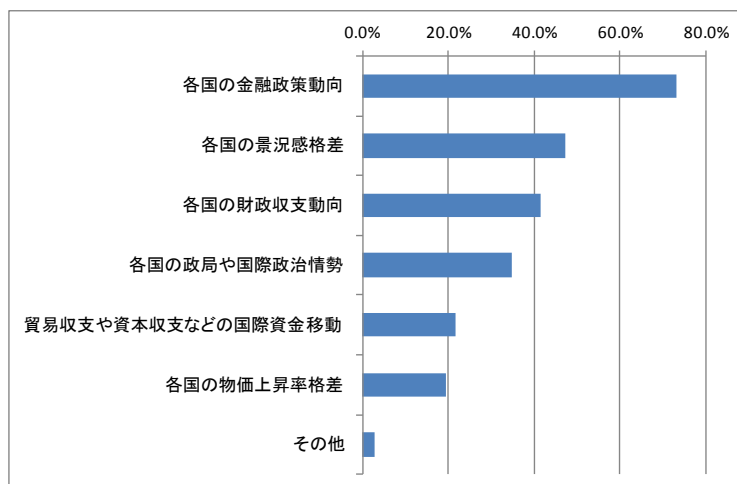
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.0%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.9%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が33.1%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は11.0%となった。調査開始以来、FX投資家の分析手法の好みに顕著な偏りは見られない。「ファンダメンタルズ重視派」と「テクニカル重視派」、「両方重視派」がバランスよく混在していると言えるだろう。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(73.3%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(47.3%)」、「各国の財政収支動向(41.5%)」、「各国の政局や国際政治情勢(34.8%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(21.7%)」、の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めている。また、最近の傾向として、「各国の財政収支動向」に注目するFX投資家がじわりと増えている事が挙げられる。(1年前の第16回調査では25.6%)近年、欧州の債務懸念や米国債の格下げなど、財政問題が為替相場の変動要因となる場面が度々見受けられる事と無縁ではないだろう。

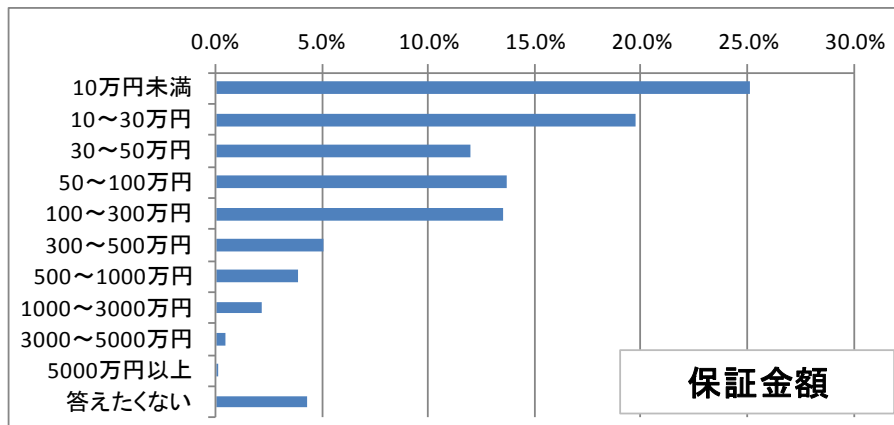


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

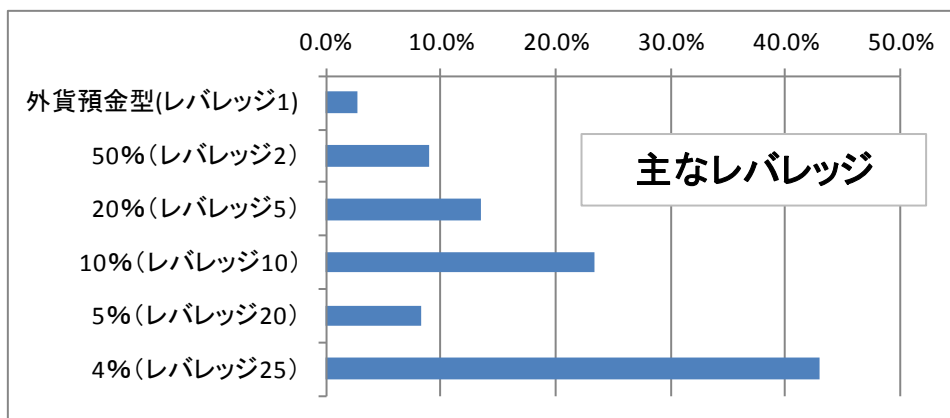
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.2%と最も多く、以下「10～30万円(19.7%)」、「50～100万円(13.7%)」、「100～300万円(13.5%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家が70.5%を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は2.8%にとどまった。比較的小額の保証金で取引が可能というFX取引の特性を良く現わしていると言える。今回も、先月までの回答割合から顕著な変化は見られず、今年8月から始まったレバレッジ規制に際して、これまでよりも保証金を増やして対応したFX投資家は少ないようだ。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が43.0%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.5%、以下「20%(レバレッジ5)」が13.5%、「5%(レバレッジ20)」が8.3%と続いた。レバレッジ規制直前の第26回調査時点では「4%(レバレッジ25)」は12.1%であり、規制直後の前回調査では34.2%に増加したが、今回調査でもさらに増加しており、4割以上の回答割合を集めた。少ない保証金で多額の取引が出来るFX取引のメリットを最大限に享受しようとするFX投資家が増加している様子が見て取れる。また、最近では、FX投資家が最も好んで取引するドル円の値動きが比較的小さい事も、最大レバレッジを選択する理由の一つとして考えられる。

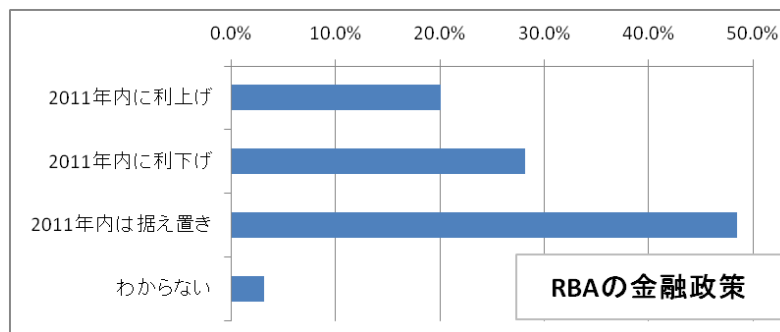


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問10: 今後のオーストラリア準備銀行(RBA)の金融政策をどのように予想していますか。(ひとつだけ)

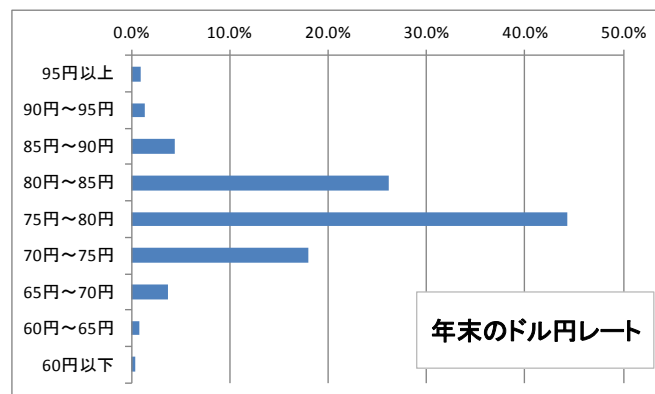
今月の特別質問項目として、今後のオーストラリア準備銀行(RBA)の金融政策をどのように予想していますか。(ひとつだけ)と尋ねたところ、「年内据え置き」が48.5%、「年内利下げ」が28.2%、「年内利上げ」が20.1%、「わからない」が3.2%となった。また、その理由について自由記述形式で回答してもらったところ、「年内利下げ」を予想する向きからは「欧米経済の低迷を受けて世界的な景気後退が予想されるため」との回答が多かった。また、「年内利上げ」を予想する向きからは「インフレが高止まりするから」との回答や「中国経済次第」との回答が目立った。FX投資家の多くは、オーストラリアの金融政策は、海外経済の動向に左右されやすいと考えているようだ。

なお、RBAは9月の声明で「国内外の成長減速が、将来的にインフレ抑制にどの程度つながるかが主要な問題になるだろう」として、今後の金融政策の方向性についての明言を避けている。



問11: 今年12月30日ニューヨーククローズ時点の米ドル/円の予想レートをお答えください

今月のもう一つの特別質問項目として、今年12月30日ニューヨーク・クローズ時点の米ドル/円の予想レートをお答えくださいと尋ねたところ、75円～80円と答えた割合が44.3%と最も多く、ついで80円～85円(26.2%)、70円～75円(17.9%)と続き、以下、85円～90円(4.4%)、65円～70円(3.8%)となった。問1、問2の結果では1カ月先のドル円相場をおおむね横ばいと予想する声が多数を占めたが、少なくとも年内はおおむね横ばいでの推移を予想するFX投資家が多いようだ。なお、1年前の第16回調査で、2010年末のドル円の予想レートについて尋ねた際に最も多かった答えは85円～90円(38.9%)であった。実際の年末レートは81.15円であり、FX投資家の予想の中心値よりもわずかに円高・ドル安水準であった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第28回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後2年以上が経過し、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

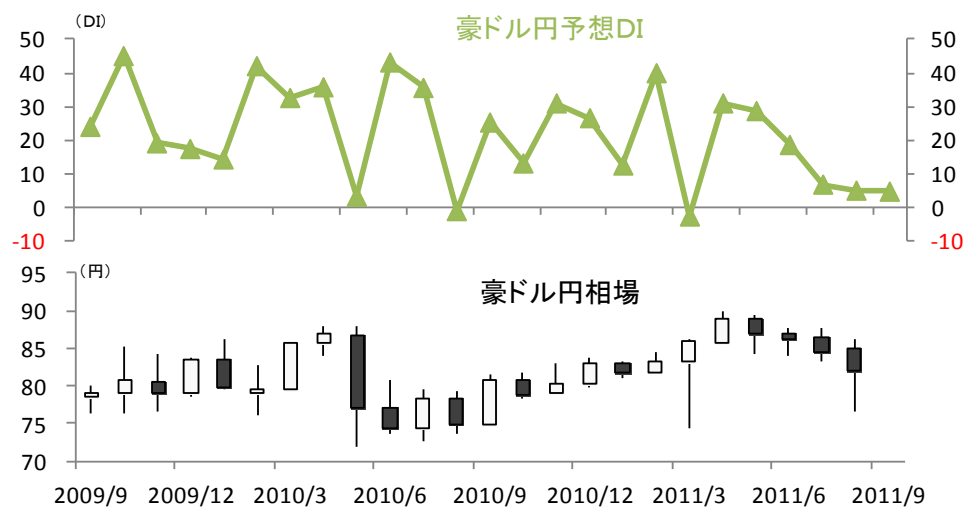
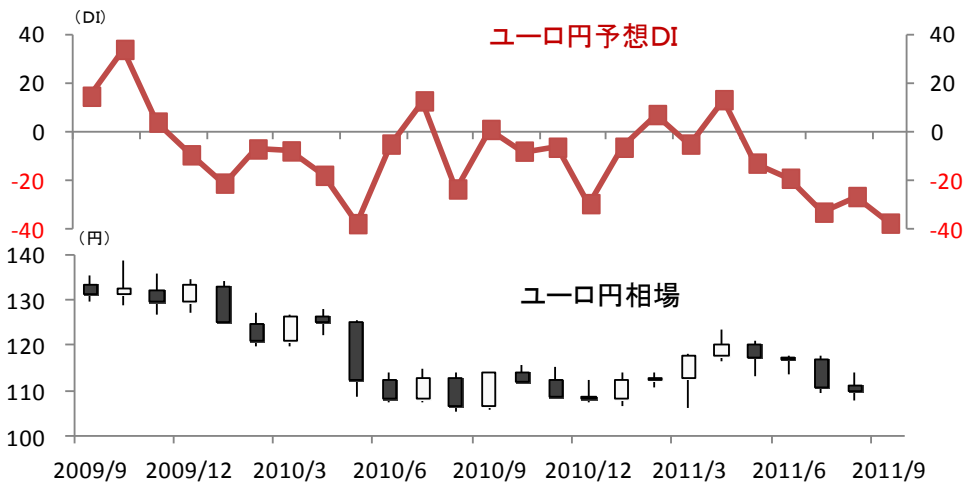
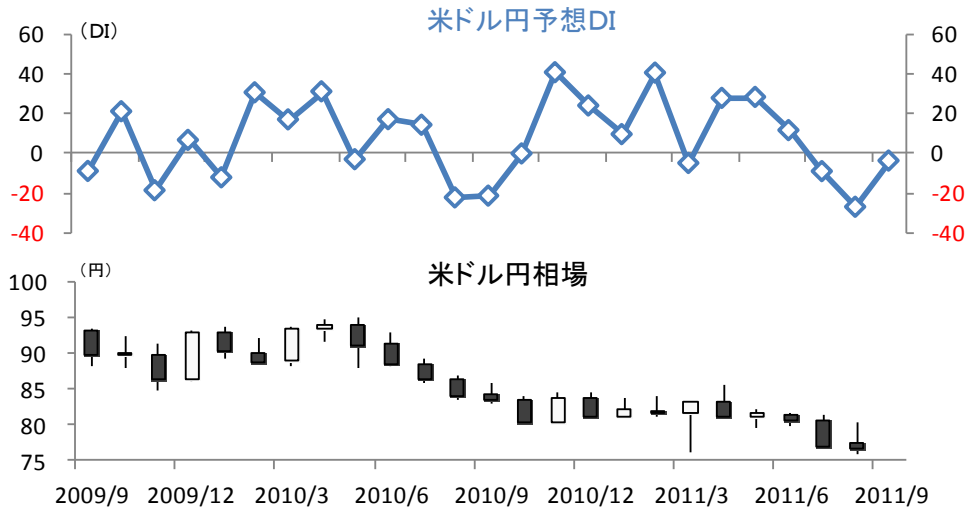
		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com